

講演とパネルディスカッション
メディアが伝えない 福島は今

～漁業・農業・そして生協の活動から見てくること～

- 10:00 開会
- 10:05 講演
- 11:35 休憩
- 11:40 パネルディスカッション
- 12:30 閉会

日時：2016年11月21日（火）10:00～12:30
会場：東京都生協連会館 3F会議室
主催：東京都生活協同組合連合会 協力：消費者行政連絡会
後援：東京都消費者団体連絡センター
参加人数：43名



司会
内藤 祐子さん
(コープみらい理事)

未曾有の大震災、原発事故から5年が経ち、メディアからは知ることができない福島の農協、漁協、コープふくしま、東京の生協での取り組みについて、それぞれの立場からお話していただき、私たちの食について考えあいました。

『震災・津波・原発事故後の福島農業の今』

講師 川上 雅則さん (JA福島農業協同組合中央会 常務理事)

震災以降、JA福島が取り組み続けている食の安全・安心の確保対策や福島県農業の復旧・復興に向けた課題について、また今後の構想などについてお話して頂きました。

安全・安心のために、入口から出口までしっかりと対策を行っています！

約2000地点での
土壌測定の実施

天地返し
カリ肥料散布など
吸収抑制対策

スクリーニング検査
モニタリング検査など
農産物の測定

福島県内の学校給食における地場産物活用割合も震災直後からはずいぶんと復活。今では米は100%福島産に！

種別	検査数	基準値超過数	超過数割合
玄米(H27年産)	約1,048万件	0件	0.00%
野菜・果実	1,200件	0件	0.00%
畜産物	1,060件	0件	0.00%
栽培きのこ	111件	0件	0.00%
山菜・野生きのこ	987件	2件	0.20%
水産物	2,521件	※1件	0.04%

基準値超過なし

復興に向けた課題

- ★検査費用に充当できる予算が枯渇寸前
- ★国の措置が必要
- ★価格が元に戻らず、営農意欲が減退
- ★長引く避難によって担い手が戻らない状況
- ★損害賠償の問題
- ★いわれのない農協批判



これから

震災と原発事故によって破壊され疲弊した福島の農業の復旧・復興に向けて、集落を単位とする農業経営法人**集落営農**の立ち上げをすすめます！

『そして・・・これから』～コープふくしまで取り組んできたこと～

講師 日野 公代さん (コープふくしま 組合員理事)

福島に住む生協の理事として、一人の消費者として震災時や震災以降、暮らしの安心を取り戻すために取り組んできたことや、福島の農業、漁業への思いをお話して頂きました。

震災直後・・・

2011年3月20日頃、福島の放射線量は20マイクロシーベルト毎時。住民は【放射能とは？勉強会】何も知らずに緊急事態の中で生活していた。コープの店舗も損傷がひどく、店内【ガラスバッジによる外部被ばく測定】(2014年以降は全国でもDシャトルで調査)に入れないので放射能の事など何も知らず【実際の食事に含まれる放射性物質の測定】に店頭販売【利用】をしていた。その後、放射能の事を知り、放射能をきちんと学ぶことから始めることに。【測定結果を広く県民に情報提供】などなど・・・

放射能を学ぶ、知る

安心につながった

震災直後、とにかく福島から逃げ出したいと思っていたお子さんのいる方が、今では2人目のお子さんも福島で生み育てている。

全国102名の協力で外部被ばく全国調査をおこなったら・・・福島県は他県と変わらなかった。

全国の生協からの被災地視察交流も270回以上になり、福島の現状を見て知って応援してくれている。私たちも福島県の農産物を支える取り組みをすすめながら冷静に前向きに福島を取り戻します！

『福島県漁業の被害と試験操業の展開』

講師 八多 宣幸さん（福島県漁業協同組合連合会 災害復興プロジェクトチーム）



福島県の漁業の特性や津波による被害、魚介類の放射性物質の影響と現在の状況や、試験操業から本格的な漁業再開にむけての取り組みをお話して頂きました。

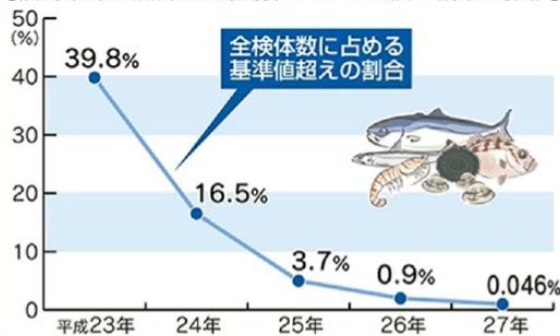
福島県沖の放射性物質検査魚介類基準超大幅減

魚介類の放射性セシウム検査平成27年に調べた約180種類、8577点のうち、食品衛生法が定める基準値（1キロ当たり100ベクレル）を超えたのは4点（シロメバル3点、イシガレイ1点）また、89%が下限値未満だった。要因は、

- (1) セシウム134の半減期が約2年であること
- (2) 魚介類の世代交代が進んだこと
- (3) 東京電力原発の復旧作業の進展で放射性物質の排出量が減ったこと

国の基準値を超えないために、**県漁連では50ベクレルを自主基準**にしている

【福島県沖の魚介類の放射性セシウム検査結果の推移】



試験操業とは・・・ 2万件以上のモニタリングの結果から、放射能が安定して大きく基準値を下回っている種だけ、小規模な漁業と販売を試験的に行い、出荷先での評判を調査して、福島県の漁業再開に向けた情報を得るために行っている漁業のことです。2016年10月現在で92種類が対象で、販売される漁獲物は福島県漁連が中心となり、毎日、海域ごと、魚種ごとに検査を行っています。現在では築地や仙台など20都府県の消費地市場へ拡大しています。

「試験操業」の対象種

平成28年10月現在

92種

- 魚類 66種**
アオメエソ、キアンコウ、コウナゴ、マガレイなど
- 甲殻類 8種**
ケガニ、ズワイガニ、ヒラツメガニなど
- イカ・タコ類 7種**
スルメイカ、ヤリイカ、ミズダコなど
- 貝類 9種**
アワビ、ホッキガイ、アサリなど
- その他 2種**
オキナマコ、ウニ

ふくしまからはじめよう。 Future From Fukushima.

漁獲量(トン)

福島の魚場は「潮目の海」と呼ばれていて多彩な魚介類に恵まれ「常磐もの」といわれるブランド物。**1年以上基準値超えの魚介類は無い。**試験操業が漁業者の支え。今後も試験操業を拡大し、本格的な漁業再開を目指すので、今後も支援をお願いしたい。

『コープみらい 復興支援の取り組み』

講師 星野 綾子さん（コープみらい 全区区分理事）

東京の生協として、震災以降続けてきた組合員活動での被災地支援、事業面での被災地支援についてお話して頂きました。



組合員活動での支援

- ★「わたしにもできる被災地支援！」として「福島の梨でかんたんスイーツ」づくりを企画開催。
- ★地域で開催される「つどい」で、組合員の間で美味しいと評判の福島の**桃のジュース「桃の恵み」**を販売。**大好評だったので今年はたくさん仕入れて販売した。**
- ★被災者が仮設住宅でつくる「千寿の会（ちじゅのかい）」の手芸品の販売も行った。



事業での支援

- ★コープネットグループでの募金による支援
- ・2015年度は4,713万円
- ★被災地生産品の取り扱いを継続
- ・「東北のぎずな商店」
- ★福島の子供も保養プロジェクト「2015コヨット in 埼玉」の開催に協力。
- ★市民団体を応援
- ・「咲かせよう！調布さくらプロジェクト」



これからも・・・

忘れない 伝える 続ける つながる

パネルディスカッション

休憩時間に参加者が記入した質問に答え
ていただいたり、復興にむけて互いの立
場でできることや、私たちへの期待など
について、パネルディスカッションで語
っていただきました。



生協や消費者に期待すること

- ★私たちは「安全・安心」をひとくくりでいうことが多いが、安全は数値で示せるが安心は気持ちの問題。安全は検査したデータを福島で出していくので、みなさんは正しく理解して頂き、周りにも伝えて安心につなげて欲しい。また、機会があれば福島に来て取り組みの様子を見て欲しい。
- ★集落営農の話講演の方でも話したが、そうした取り組みをすすめながら復興に向かっていくのでこれからも連携した支援をお願いしたい。

生協としてこれからできること

《福島の生協で・・・》

★新しいことに取り組むのも大事だが、これまで取り組んできたことを継続し、情報提供もすすめていく。

福島では陰膳調査の協力者が減ってきている。それは、もう「美味しいと感じてもらうためには正しく知ること」。安心を得るための活動を着実に地道に続けていく。

《東京の生協で・・・》

★生協は助け合いの組織。6年目をむかえると正直福島に目がいなくなっている組合員もいるが、生協のつながりを活かして「わたしができることはなんだろう？」と考えあい、福島にいる人達の不安な気持ちに寄り添える活動を継続していきたい。

これだけは忘れないでいてほしいこと

◆身近な場所で・・・

・福島に行かないからわからない。ではなく行かなくてもできる

◆美味しい 😊

・安全は当然として、美味しいものを作っていく。福島のは「美味しい」と覚えて帰って欲しい。

◆PCFP

・パーソン、コープ、福島、パーソン。人と人との間にコープと福島がある。これからもつながっていききたい。

◆もう少し！

・今日で2083日目。5年8カ月。試験操業の漁場も拡大できた。もう少し待っていただき、本格的に漁業が再開したら買って応援してほしい。

日本酒も美味しい！

全国新酒鑑評会で4年連続1位！



◆◆◆アンケートより抜粋（アンケート提出24枚）◆◆◆

《講演・パネルディスカッションを聞いて》

- ・福島のJA、漁連の関係者の皆様が安全・安心を取り戻すために大変な努力をされていらっしゃるのことがわかりました。今までの不安がだいぶ解消されました。
- ・イメージしていたより、福島に住んでいる方々は福島の現状について安全性に肯定的であることもわかりました。
- ・集落営農の発想はとてもよいですね。東京でたくさん発信してください。
- ・生協はひとつだけではないので、いろんな生協の話が聞きたかったです。
- ・良くわからなかった漁業のことがわかりました。
- ・空間線量が東京や他県と変わらないのに、福島の保養プロジェクトが続いているのはなぜ？このプロジェクトが続く限り「福島は安全」とイメージできない。
- ・各位からのキーワードとひとことが理解と認識を深めた。

《福島のみなさんへメッセージ》

- ・生活協同組合は長い助け合いの経験を持っています。COOPの一組合員ではありますが、関東大震災の賀川豊彦の「一人は万人のために、万人はひとりのために」のあとに続いて「使命をはたせ」という言葉があるのを教えられました。ともに手を携えて前進しましょう。
- ・買って応援！一日も早く震災前に戻れますように。
- ・今日聞いたことを伝えます！ただ購入して食べるだけでなく「ふくしま」への理解、支援の気持ちが広がるよう活動していきます。そして「ふくしまアンテナ」をしっかりと立てていこうと思います。一緒にがんばりましょう。
- ・月1回福島産農産物の直送を買っています。店で見かけたら買うようにしています。美味しいです。美味しいものを待っています。